

科目名	看護学概論				
科目分類	専門分野 I	履修年次	1年次	履修時期	4月～8月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	看護の概念を理解し、看護科学としての看護学および看護の機能や看護者の役割について理解する。				
学習目標	1. 看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。 2. 看護の対象を理解し、看護における基本的な考え方を身につける。 3. 保健・医療・福祉における看護職の専門性と役割について学ぶ。 4. 仲間とのディスカッションを通してきずなを深め、看護者に必要な資質を理解し身につけることができる。				
回	授業内容			授業方法	
1	授業ガイダンス、協同学習の進め方 I 看護とは A 看護の本質			講義	
2	1. 看護の変遷 2. 看護職の成立と発展 1) 看護の歴史 2) 職業としての看護			協同学習	
3	3. 看護の定義 1) 保健師助産師看護師法における定義 2) 看護職の団体による看護の定義 3) 看護の理論家に見る看護の定義			講義	
4	B 看護の役割と機能 1. 看護ケアについて 2. 看護実践とその質保証に必要な要件 3. 看護の役割・機能の拡大			講義	
5	C 看護の継続性と情報共有 1. 施設間の連携、医療機関における情報伝達と共有 2. 多職種チームの連携と継続的な関り 3. 勤労者看護(治療就労両立支援)			講義	
6	II 看護の対象の理解 A 人間の「こころ」と「からだ」 1. 人体の構造と機能・病態生理、ホメオスタシス 2. ストレスの影響と患者の心理 3. 対象のこころの理解に役立つ理論			講義	
7	B 生涯発達しつづける存在としての人間 C 人間の「暮らし」の理解 1. 生活者としての人間:「生活」の3つの側面 2. 看護の対象としての家族・集団・地域 D 人間の性:セクシャリティ			講義	
8	III 健康と病気 1. 健康とは何か 2. 健康の関連要因 3. 社会の変遷と健康観の変化 4. 健康の増進と病気の予防			講義 協同学習	
9	5. 人々の生活と健康に関する統計 1) 国民の健康の全体像 2) 国民のライフサイクルと健康・生活 3) 現代の日本人の健康と生活を考えるキーワード			協同学習	
10	IV 看護の提供者 1. 看護職の資格と養成に関わる制度 2. 看護職者の就業状況と継続教育 3. 看護職養成制度の課題			講義	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
11	V 看護における倫理 1. 職業倫理としての看護倫理 2. 患者の権利とインフォームドコンセント 3. 現代医療における倫理的問題 4. 医療専門職の倫理規定	講義
12	5. 看護の本質としての看護倫理 6. 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 7. 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義 協同学習
13	VI 医療・保健・福祉サービス提供の場と看護 1. サービスとしての看護 2. 看護の機能と活動の場における特徴 3. 保健医療福祉活動におけるチーム活動と看護の役割	講義
14	VII 医療安全と医療の質保証 1. 看護・医療事故の概念 2. ヒューマンエラーと医療事故 3. 医療における患者の安全確保	講義
15	試験	
使用教材	1. 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 2. 新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社 3. 系統看護学講座 別巻 看護史 医学書院 4. よくわかる看護者の倫理綱領 照林社	
参考文献	1. ナーシンググラフィカ⑩ 基礎看護学 看護学概論 メディカ出版 2. 金子道子編集 看護論と看護過程の展開 照林社 3. 黒田裕子 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研 4. 松木光子編集 看護理論 ヌーヴェルヒロカワ 5. 野川道子 看護実践に活かす中範囲理論 メヂカルフレンド社 6. 内海眞編集 看護・医療事故防止 医歯薬出版	
成績評価の方法	筆記試験80% 授業態度(グループワーク参加姿勢・課題学習の取り組み)20%	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		看護理論			
科目分類	専門分野 I	履修年次	2年次	履修時期	7月 ~10月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	看護に関する代表的な理論を理解する				
学習目標	1. 理論、研究、実践の関係を学び、看護理論の学習の意義を理解する。 2. 看護における代表的な理論の基礎を理解する。 3. 看護理論の実践への活用について学ぶ。				
回	授業内容			授業方法	
1	I 看護の理論と実践 1. 看護理論とは何か 2. 看護理論をなぜ学ぶのか 3. 看護理論の範囲 4. 看護理論の変遷と主要な看護理論 1) ニード論      2) 相互作用理論 3) システム理論 4) ケアリング理論 5. 看護理論を実践に活用するためには			講義	
2	II 理論の概要と実践への適用(理論家別) 1. ジョイス・トラベルビー 2. アイモジン・M・キング 3. シスター・カリスタ・ロイ 4. ドロセア・E・オレム 5. ジーン・ワトソン 6. マドレイン・M・レイニンガー			講義 概要の説明 GWのガイダンス	
3	第3回～6回まで課題学習			グループワーク	
4	1) 看護理論家の経緯				
5	2) 理論を構築した動機と影響を受けた人物				
6	3) 理論家のメタパラダイム(人間・環境・健康・看護)				
7	4) 事例を用(看護実践)を看護理論に基づいて説明する				
7	発表				
8	試験				
使用教材	1. 黒田裕子監修 ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 改訂第4版 日総研 2. 野川道子編著 看護実践に活かす中範囲理論 第2版 メヂカルフレンド社				
参考文献	1. 正木治恵・酒井郁子編著 看護理論の活用—看護実践の問題解決のために— 医歯薬出版 2. 城ヶ端初子編著 ケースカンファレンスで実感「臨床で使いたくなる看護理論」 メディカ出版 3. 城ヶ端初子編著 改訂版 実践に活かす看護理論 サイオ出版 4. 黒田裕子監修 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版 学研 5. 松木光子編集 看護理論 理論と実践のリンケージ ニューヴェルヒロカワ 6. ナーシンググラフィカ 基礎看護学①看護学概論 メディカ出版 7. 竹尾恵子監修 新訂版 超入門 事例で学ぶ看護理論 学研 8. 月間ナーシング 10月臨時増刊号 臨床現場の困ったを解決する看護理論 学研				
関連科目	トラベルビー、ペプロウ、オーランド、ウィーデンバック、オレムについては、精神看護援助論Ⅱで学習します。				
成績評価の方法	筆記試験70点 事前学習の取り組み・グループワーク内での発言など30点				

科目名		臨床看護総論			
科目分類	専門分野 I	履修年次	2年次	履修時期	5月 ~8月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	認定看護師 専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	多様な健康障害をもつ対象の特徴を学び、状態に応じた看護を理解する。				
学習目標	1. 慢性期・回復期・リハビリテーション期にある対象のニーズと看護援助を理解する。 2. 急性期看護の特徴と対応・危機管理について知識を得る。 3. 周手術期における生体侵襲、患者及び家族の心理とその看護について理解する。 4. 終末期にある対象のニーズと看護援助を理解する。 5. 健康障害の経過の特徴と主要症状別看護、治療別看護を統合して、必要な看護ができる。				
回		授業内容			授業方法
1	専任教員	<b>科目ガイダンス</b>			講義 協同学習
2		<b>I. 身体機能の変調に合わせた看護の考え方の概要</b> (経過別看護、症状別看護、治療・処置別看護) ★闘病記レポート(事前課題)を活用した協同学習			
3		<b>II. 経過別看護(慢性期)</b> 1. 慢性期の特徴 2. 慢性期の患者のニーズ 3. 慢性期にある患者への看護援助 <b>III. 経過別看護(回復期・リハビリテーション期)</b> 1. 回復期にある患者の看護 2. リハビリテーション期の特徴と患者のニーズ 3. リハビリテーション期にある患者への看護援助			
4	手術看護認定看護師	<b>IV. 経過別看護(急性期)</b>			講義
5		1. 急性期の特徴・生体反応 2. 急性期における患者・家族の看護 3. 周手術期看護・チーム医療について 4. 手術室看護と看護師の役割 5. 術前～術中～術後の看護			講義、演習
6		6. 術中の安全管理、手術体位 7. 術後の看護について 8. 術後合併症予防と早期回復に向けた看護 9. 創傷治癒過程、術後疼痛管理、ドレーン管理			講義・演習
7	専門がん看護師	<b>V. 経過別看護(終末期)</b>			講義
8	専任教員	<b>1. 終末期とは 終末期医療とギアチェンジ</b> <b>2. 終末期におけるチーム医療、倫理的課題</b> <b>3. 終末期にある人と家族への看護援助</b> <b>4. 死の判定と臨終・死亡時の看護</b>			講義
9		<b>VI. 輸液療法を受ける対象者への看護(治療・処置)</b> 1. 輸液療法の特徴 2. 輸液療法中の看護援助 演習-1・2 グループ発表・シナリオ提示、GWの計画立案 <b>VII. 安静療法を受ける対象者への看護(主要症状)</b> 1. 安静療法の特徴 2. 安静療法中の看護援助			
10	専門がん看護師	<b>VIII. 化学療法を受ける対象者への看護</b>			講義
11	認定放射線看護師	<b>1. 化学療法の特徴</b> <b>2. 化学療法を受ける患者・家族への看護援助</b>			講義
11	認定放射線看護師	<b>IX. 放射線療法を受ける対象者への看護</b> 1. 放射線療法の特徴と目的、照射方法 2. 放射線の治療過程に伴う看護 3. 代表的な有害事象とその看護、副作用の実際			
12	専門がん	<b>X. 主要症状の看護</b>			講義

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回		授業内容	授業方法
	門ん看護師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 痛みとは、痛みのアセスメント</li> <li>2. 痛みに対する薬物療法・非薬物療法</li> <li>3. 痛みにも有効なケア</li> </ol>	
13 14 15	専任教員	<p><b>XI. 演習-1(回復期・慢性期患者の看護)</b>                      「病気の理解とシナリオの看護を考える」                      グループ別に事例の病態を理解し必要な看護を考える(病態が見えるように) グループ発表</p> <p><b>演習-2(主要症状の看護)</b>                      「シナリオの看護援助の実際(看護技術の適用)」                      シナリオの患者に必要な看護援助を実践する</p> <p>試験</p>	<p>グループごとに プレゼンテーション</p> <p>グループごとに プレゼンテーション</p>
	使用教材	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院</li> <li>2. 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 メヂカルフレンド社</li> <li>3. 病気・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 第3版 医学書院</li> <li>4. 高木永子監修 看護過程に沿った対象看護 第4版 学研</li> <li>5. 竹尾恵子監修 看護技術プラクティス 第3版 学研</li> <li>6. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</li> <li>7. 周手術期看護 インターメディカ</li> <li>8. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院</li> <li>9. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院</li> <li>10. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院</li> <li>11. DVD 看護のためのアセスメント事例集 第2版                          VOL.1 左大腿骨頸部骨折患者の看護事例                          VOL.6 乳房温存術を受けた患者の看護事例                          VOL.7 慢性心不全患者の看護事例                          VOL.8 慢性呼吸不全管下の看護事例                          VOL.10 急性骨髄性白血病の患者の看護事例                          VOL.11 慢性腎不全の血液透析患者の看護事例</li> </ol>	
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野川道子 看護実践に活かす中範囲理論 メヂカルフレンド社</li> <li>2. 黒田裕子 看護診断のためのよくわかる中範囲理論</li> <li>3. 中西睦子 成人看護学-慢性期 建帛社</li> <li>4. 新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護学総論 メヂカルフレンド社</li> <li>5. 周手術期管理リームテキスト 第2版 日本麻酔科学会</li> <li>6. 手術室看護 術前術後をつなげる術中看護 医歯薬出版株式会社</li> <li>7. 周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院</li> <li>8. ポジショニング学 中山出版</li> <li>9. オペナーシング 第28巻4号・第30巻4号 メディカ出版</li> <li>10. ナースのためのドレーン管理マニュアル 照林社</li> <li>11. 臨床看護学叢書2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社</li> </ol>	
	成績評価の方法	筆記試験90点 グループワーク10点	

科目名	看護過程				
科目分類	専門分野 I	履修年次	1年次	履修時期	9月 ~ 3月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	対象の特殊性・個別性に合わせた看護を実践するために看護過程のプロセスを理解する。				
学習目標	1. 看護過程の概念と、看護過程を活用する意義を理解できる。 2. 看護過程の段階とそれぞれの構成要素について理解できる。 3. ヘンダーソンが考える看護(看護の概念と概念枠組み)と、考えに基づく看護過程を理解できる。 4. 看護過程における記録・報告の意味が理解できる。 5. ペーパーペイシエントの事例をもとに看護計画を立案することができる。				
回	授業内容			授業方法	
1	I. 看護過程とは 1. 看護過程とはなにか 2. なぜ学ぶのか 3. 看護とは 4. 看護過程の考え方 5. 看護過程の構成要素			講義	
2	II. 看護過程の基盤となる考え方 1. 人間関係過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション			講義	
3	III. 情報の収集と分析 1. 情報収集とは 2. 情報収集の方法 3. 情報の分析			講義 DVD	
4	IV. ヘンダーソンの考えに基づく看護過程 1. 看護理論とは 2. ヘンダーソンの生い立ち 2. ヘンダーソンの人間・環境・健康・看護に対する考え方、看護独自の機能について			講義	
5	V. 看護過程のプロセス 1. アセスメント 1) アセスメントとは何か 2) 情報とは何か 3) 情報の種類(S・Oデータ) 4) 情報収集の枠組みと整理 2. 看護過程の展開(実習の進め方) 1) 事前学習必要性 2) 情報収集について 3) 1号用紙・2号用紙の意味と記載方法			講義 演習 グループワーク	
6	4) 3号用紙の意味と記載方法				
7	2. 全体像の描写 1) 全体像とは何か 2) 全体像を把握する必要性 3) 全体像の描写の仕方 3. 望ましい姿の設定 4. 看護問題の明確化 1) 看護上の問題とは何か 2) 看護上の問題の種類 3) 看護診断・共同問題・医学診断 4) 看護問題の表現方法と計画との関連			講義	
8	4. 看護計画の立案			講義	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
9          10 ～ 13   14   15	1)期待される結果の設定 2)看護計画の立案方法 5. 実施 1)看護過程における実施の意義 2)実施のプロセス 6. 評価 1)看護過程における評価の意義・目的 2)評価の内容・種類・方法 V. 記録・報告 1. 患者記録の目的と種類 2. 看護記録 3. フローチャート 4. クリティカルパス 5. 報告 看護過程演習 <演習のねらい> ヘンダーソンの考え方に基づく看護過程について、協同学習を通して考え方や 様々な視点を学び、共有することで、理解を深める。 演習方法・内容に関しては別紙資料参照のこと V. 記録・報告(続き) 6. 記録の実際(注意することなど) 7. 経過記録について 試験	講義 個人作業 協同学習 全体会 講義
使用教材	1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学①看護学概論 医学書院 3. 秋葉公子他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ 4. 渡邊トシ子編 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント 同一事例による比較 ニューヴェルヒロカワ 5. V. ヘンダーソン著 湯楨ます訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 6. 高木永子監修 看護過程に沿った対象看護 学研	
参考文献	1. 黒田裕子 看護学生版シリーズ2 わかりやすい看護過程 照林社 2. 三上れつ 第2版 実践に役立つ看護過程と看護診断 ヘンダーソンとゴードンのデータベースに基づく事例展開 ニューヴェルヒロカワ 3. 野地 有子 他 楽しく学ぶクリティカルシンキング 根拠に基づく実践のために 廣川書店 4. 斎藤悦子 他 看護過程学習ガイド 思考プロセスからのアプローチ 学研 5. 任 和子 編 看護学生必携シリーズ 看護過程展開ガイド ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる 照林社 6. 古橋 洋子監修 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 7. ロザリнда・アルファロールーフィーヴァ 基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院 8. 黒田裕子 監修 改訂版 やさしく学ぶ看護理論 日総研	
成績評価の方法	前講義終了後の筆記試験(85点)と講義期間中の課題提出状況(15点)によって評価する。	

科目名		基礎看護技術 I (環境と活動)			
科目分類	専門分野 I	履修年次	1年次	履修時期	5月～8月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	対象に合った看護を実践するために、生活環境、活動の援助に必要な知識・技術・態度を習得する。				
学習目標	内容 I (単元 環境) 1. 環境と健康の関連を理解し、健康な生活を維持するための環境条件を理解する。 2. 療養生活の場を、安全・安楽に整えるための知識と技術を習得する。 内容 II (単元 活動) 1. 対象と看護者の安全・安楽を守る有効な身体の使い方を学ぶ。 2. 活動・休息が人間に与える影響を知り、活動・休息のニーズを充足するための基本的援助方法を理解する。				
回	授業内容			授業方法	
1	I. 環境 ※講義のガイダンス 1. 看護援助における環境の位置づけ 1) 環境とは 2) 環境の分類 3) 人間と環境の関係 4) 看護学における「環境」の捉え方 ナイチンゲール、ヘンダーソンの考え方 5) 労働環境と健康 2. 療養生活環境の調整にかかわる基礎知識 1) 病院・病棟・室内の環境条件 3. 病院の環境のアセスメントと調整 1) 病室・病床の選択 2) 温度・湿度 3) 光と音 4) 色彩 5) 空気の清浄性と におい 6) 人的環境(プライバシーとテリトリー)			講義	
2	5. 援助の実際 1) ベッド周囲の環境整備 2) 寝具に求められる条件 ① 寝床気候 ② マットレスの硬さと寝返り ③ 寝具の条件と褥瘡 ④ 褥瘡予防としてのマットレス 3) ベッドメイキングの実際 ①			講義	
3	ベッドメイキングの実際 ② ★演習オリエンテーション: 実習室使用に関する注意			演習	
4	6. 病床環境の調整に関するアセスメント 1) 患者を迎える前に 2) 患者を迎えてから 3) 生活が始まる前から 4) 安全・安楽の視点での環境			講義 DVD視聴	
5	4) 病床整備(グループ演習)			講義 演習	
6	7. ベッドメイキング演習			演習	
7	8. 臥床患者のリネン交換 まとめ			演習	
9	II. 活動・休息 ※講義のガイダンス <基本的活動の援助> 1. 基本的活動の基礎知識 1) 日常生活動作 2) 良い姿勢とは 3) ボディメカニクス			講義	
10	2. 体位 1) 基本体位 2) 特殊体位 3. 活動と休息 1) 対象の状況に応じた援助方法			講義	



釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
11	2)姿勢・体位の援助に関する安全 3)体位変換の必要性和方法 4)援助の実際① 歩行介助 水平移動 体位変換 移送車への移動・移送 車椅子移送 ベッド・マットレスの種類 体圧分散	講義 演習
12	<睡眠・覚醒の援助> 1. 睡眠の基礎知識 2. 睡眠のアセスメント 1)睡眠障害の種類と要因 2)睡眠に関するアセスメントの留意点	講義
13	3. 援助の実際② 1)活動援助場面におけるヒヤリハット事例 2)歩行介助 3)体位変換・水平移動・車椅子への移乗・移送	講義 演習
14	演習のオリエンテーション 演習 看護技術チェック(車いす移乗)	演習
15	試験	
使用教材	単元:環境・活動共通 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 3. 看護技術プラクティス 学研 4. 看護のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院	
参考文献	1. V. ヘンダーソン著 湯楨まき訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2. 看護覚え書 現代社 3. 看護技術 講義・演習ノート 医学芸術社 4. 看護技術がみえる 臨床看護技術① メディックメディア	
成績評価の方法	筆記試験 課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。	

科目名		基礎看護技術Ⅱ(コミュニケーションと清潔)			
科目分類	専門分野Ⅰ	履修年次	1年次	履修時期	5月～8月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	対象にあった看護を実践するために、コミュニケーション技術や清潔を保つ援助に必要な知識・技術・態度を習得する。				
学習目標	内容Ⅰ(単元 コミュニケーション) 1. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、関係構築のための基本と効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。 2. よりよい看護実践に向けた効果的なカンファレンスの方法を理解できる。 内容Ⅱ(単元 清潔) 1. 清潔の意義を理解し、対象に状況に合わせた安全・安楽な清潔な援助に必要な知識・技術・態度を習得する。				
回	授業内容				授業方法
1	I. コミュニケーション ※講義のガイダンス 1. コミュニケーションの基本 1) 行動で磨くコミュニケーション 2) 聴く・話す・受けとめる 3) コミュニケーションの構成要素				講義 体験学習
2	2. 対人関係プロセスとしての看護 1) 看護師と患者の関係 2) 対人関係の成立に不可欠な要件 自分を理解する、自己一致、他者を理解する				講義 ロールプレイ
3	3. コミュニケーションのプロセスに影響する因子 日本人の文化、医療文化、人間関係と空間 4. 看護におけるコミュニケーション技術とコミュニケーション能力の向上 1) 医療におけるコミュニケーション技術とコミュニケーション能力の向上 2) 傾聴・共感の技術 3) コミュニケーション障害への対応 4) 面接技法とロールプレイング 5) プロセスレコード				講義
4	5. 看護実践に向けたカンファレンス 1) 討議法 2) カンファレンス 3) 目的・機能、効果的な運営方法、種類と手順、評価				講義
5	4) カンファレンスの実際と評価				講義 演習
6 45分	II. 清潔 1. 清潔の援助 1) 清潔の援助の基礎知識 皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の効果、患者の状況に応じた援助の決定と留意点				講義
7	2) 援助の種類 2. 病床での衣生活の援助 1) 援助の基礎知識 衣類を用いることの意義、熱生産と熱放散、被服気候、衣生活に関するニーズのアセスメント 2) 援助の実際 病衣の選び方、病衣・寝衣の交換(臥床患者の寝衣交換、持続点滴中の場合、四肢に障害がある場合)				講義

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
8	3) 寝衣交換演習(体験) ① 全身に力が入らず、自力での体位変換が不可能な患者 ② 肘関節・右膝関節を曲げることが出来ない患者	協同学習
9	3. 清潔の援助の実際 1) 援助の基礎知識 2) 清拭援助の実際 ① 清拭・寝衣交換の実技試験オリエンテーション ② 事例の着眼点・技術演習チェック表の記載方法	講義
10 45分	★実技試験 清拭・寝衣交換	実技試験
11	3) 他清潔援助の実際 入浴・シャワー浴、手浴、足浴、爪切り、洗面、眼・耳・鼻の	講義
12	清潔、口腔ケア	
13	4) 洗髪援助の実際 洗髪演習オリエンテーション	講義
14・15	洗髪演習	講義 講義 演習
16	試験	
使用教材	<p>単元:コミュニケーション 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 2. 竹尾恵子 看護技術のプラクティス 第3版 学研 3. 長谷川雅美 自己理解・他社理解を深めるプロセスレコード 第2版 日総研</p> <p>単元:清潔 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 2. 竹尾恵子 看護技術のプラクティス 第3版 学研</p> <p>&lt;DVD/ビデオ&gt; ※①～⑤単元1コミュニケーションにて使用 ⑥⑦単元2清潔にて使用 ①看護実践能力向上シリーズ 患者のこころによりそう看護コミュニケーション コミュニケーションの基本(17分) ② ①同シリーズ 効果的なコミュニケーションスキル I (17分) 京都科学 ③看護論シリーズ アイダ・J・オーランド、アーネスティン・ウィーデンバック(27分) ビデオ・パック・ニッポン ④看護教育にいかす討議法 I. 討議をうまくすすめるためには! (20分) ビデオ・パック・ニッポン ⑤看護教育にいかす討議法 II. さあ!カンファレンスをよくしよう(20分) ビデオ・パック・ニッポン ⑥生体のしくみ 第2版 第1集 vol.004・005 皮膚と粘膜(14分) 医学映像教育センター ⑦基礎看護技術 V15 清拭(30分) 坂本モデル</p>	
参考文献	講義中に適宜提示	
成績評価の方法	筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価する。また、単元:清潔の技術試験の合格をもって、基礎看護技術 II の科目を認定とする。	

科目名	基礎看護技術Ⅲ(食事と排泄)				
科目分類	専門分野 I	履修年次	1年次	履修時期	6月～9月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	対象にあった看護を実践するために、食事と排泄の援助に必要な知識・技術・態度を習得する。				
学習目標	<p>内容Ⅰ(単元 排泄)</p> <p>1. 人間にとっての排泄行動とその意義について、解剖学・病態生理学的な点を理解しながら、生理的欲求と日常生活における行動としての排泄メカニズムについて学ぶ。</p> <p>2. 対象のニーズと安全・安楽をふまえた排泄援助技術を習得し、状況に応じて実施するための基本技術について学ぶ。</p> <p>内容Ⅱ(単元 食事)</p> <p>1. 人間にとっての食事の意味と、対象に応じた栄養摂取方法を理解する。</p> <p>2. 対象に応じた食事の援助方法を理解し、適切な食事援助技術を習得する。</p>				
回	授業内容			授業方法	
1	《単元 排泄》 Ⅰ. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1. 排泄の意義			講義	
2	2. 排泄器官の機能とメカニズム 3. 排泄のアセスメント			講義	
3	Ⅱ. 自然排尿および自然排便の介助の実際 1. トイレにおける排泄介助			講義	
4	2. 床上排泄援助 ①便器・尿器介助 ②陰部清拭			演習	
5	【演習】臥床患者の便器を使った排泄の援助 ※デモンストレーション			講義	
6	Ⅲ. 導尿 1. 一時的導尿 2. 持続的導尿			講義	
7	Ⅱ. 自然排尿および排便の介助の実際 3. おむつによる排泄援助 ①陰部洗浄 ②紙おむつ装着・交換 ※実技試験オリエンテーション・デモンストレーション			講義	
8	【実技試験】 臥床患者のおむつ交換と陰部洗浄			実技試験	
9	Ⅳ. 排便を促す援助 1. 浣腸 2. 摘便 Ⅴ. ストーマケア			講義	
10	《単元 食事》 1. 健康生活における食事の意義 2. 栄養と食事に関する看護の役割 3. 食事に関する生理学的メカニズム			講義	
11	1. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 2. 医療施設で提供される食事			講義	
12	1. 食事への援助 2. 援助の実際・デモンストレーション 3. 摂食・嚥下障害時の援助			講義	
13	【演習】 ベッドギャッジアップ30度の食事介助を实践			演習	
14	1. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 経静脈栄養法			講義	
15	試験				
使用教材	<p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院</p> <p>2. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版 学研</p> <p>3. 川島みどり監修 看護学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>				
	《単元 排泄》				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

<p>参考文献</p>	<p>1.F. ナイチンゲール 看護覚え書 ―看護であること・看護でないこと― 現代社                  2.基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の実際 ニューヴェルヒロカワ                  3.根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社                  4.川口孝泰 ベッドまわりの環境学 医学書院                  《单元 排泄・食事 共通》                  5.ナーシンググラフィカ 基礎看護学 基礎看護技術 メディカ出版                  6.看護技術がみえる Vol. 1 看護技術 メディックメディア                  《单元 食事》                  7.系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院                  8.系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院                  9.系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院                  10.看護技術 講義・演習ノート 上巻 日常生活援助技術 医学芸術社                  11.看護学生のための解剖生理 よくわかるBOOK メヂカルフレンド社                  12.エキスパートナースMOOK 看護学生版シリーズ⑨ 写真で見る 基礎看護技術 照林社                  13.ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 メディカ出版                  14.小玉香津子・尾田葉子 フローレンスナイチンゲール 看護覚え書き 日本看護協会出版会</p> <p>&lt;食事&gt;                  ①系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学:医学書院                  ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器:医学書院                  ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器:医学書院                  ④看護技術 講義・演習ノート 上巻 日常生活援助技術 篇:医学芸術社                  ⑤看護学生のための解剖生理 よくわかるBOOK:メヂカルフレンド社                  ⑥エキスパートナースMOOK 看護学生版シリーズ⑨ 写真で見る 基礎看護技術:照林社                  ⑦ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術:メディカ出版                  ⑧ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学:メディカ出版                  ⑨看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術:メディックメディカ                  ⑩小玉香津子・尾田葉子 フローレンスナイチンゲール 看護覚え書き:日本看護協会出版会</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>排泄:筆記試験・授業参加態度・提出物 50点/実技試験10点の 計60点                  食事:筆記試験90%、課題・演習態度・演習後のレポートなど10%                  排泄と食事合わせて100点</p>

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)				
科目分類	専門分野Ⅰ	履修年次	1年次	履修時期	9月～2月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	対象にあった看護を実践するために、全ての看護行為に共通する基本技術の知識・技術・態度を習得する。				
学習目標	1. 看護におけるフィジカルアセスメントの必要性を理解できる。 2. フィジカルイグザミネーションの基礎的知識と技術を習得できる。 3. フィジカルイグザミネーションによって得た情報から、系統的にアセスメントする基礎的能力を身につける。 4. 呼吸・循環を整える基本技術を身につける。				
回	授業内容				授業方法
1	フィジカルアセスメント総論				講義
2	フィジカルアセスメント総論				講義・演習 DVD視聴
4	フィジカルイグザミネーションの基本技術 生命徴候(バイタルサイン) 体温・呼吸・脈拍・心拍の観察				
5	生命徴候(バイタルサイン) 血圧・意識状態の観察				講義・演習 DVD視聴
3	身体各部の計測				
6	呼吸器系のフィジカルアセスメント				講義 DVD視聴
7	実技試験の説明と課題の提示、デモンストレーション				講義・演習
8	循環器系のフィジカルアセスメント				講義
9	リンパ・乳房・腹部のフィジカルアセスメント				講義
10	バイタルサイン測定の実技試験				実技試験
45分	感覚器、神経系のフィジカルアセスメント				講義・演習
11	筋・骨格器系のフィジカルアセスメント				講義・演習
12	フィジカルアセスメント演習				講義
13	フィジカルアセスメント演習				グループワーク
45分	呼吸・循環を整える技術				講義・演習
14	試験				筆記試験
15	試験				筆記試験
16	試験				筆記試験
使用教材	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 村上美好監修 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス インターメディカ 3. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版 学研				
成績評価の方法	「筆記試験」「態度・課題への取り組み」を合わせて100点満点とし、合わせて60点以上で単位認定とする。成績評価の内訳…紙上試験80%+態度・課題への取り組み20%				

科目名	基礎看護技術Ⅴ 診療の補助【診察・安楽、創傷・感染】				
科目分類	専門分野Ⅰ	履修年次	2年次	履修時期	4月～7月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	対象が安全・安楽に診療を受けるために必要な知識・技術・態度を習得する。				
学習目標	<p>内容Ⅰ(単元 診察・安楽)</p> <p>1. 患者が安全・安楽に診察・検査を受けられるように援助する技術を習得する。</p> <p>2. 安楽を促すための看護として、環境・体位・褥法に関する生体への影響を理解しその方法を習得する。</p> <p>内容Ⅱ(単元 創傷・感染)</p> <p>1. 感染および院内感染発生の要因を理解し、その防御のための基礎知識を習得する。</p> <p>2. 創傷治癒過程と影響要因を理解し、治癒を促進するための援助方法を習得する。</p>				
回	授業内容			授業方法	
1	Ⅰ. 診察・安楽 ※講義のガイダンス 1. 診察とは 2. 検査とは			講義	
2	1) 検体検査 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 3. 生体情報のモニタリング 1) 心電図検査 2) 心電図モニター 3) SpO2モニター 4) 血管留置カテーテルモニター 4. 検査処置の介助			講義	
3	1) X線 2) CT 3) MRI 4) 内視鏡 5) エコー 6) 肺機能検査 7) 核医学検査 8) 穿刺 4. 検体検査 1) 血液検査 ① 静脈採血法(真空採血法) ② 動脈血採血 ③ 簡易血糖測定			講義 DVD視聴	
4	5. 静脈採血法(真空採血法)の手技			講義 DVD視聴	
5	6. 採血演習オリエンテーション 1) デモンストレーション			講義 DVD視聴	
6	7. 静脈血採血演習(真空採血法)			演習	
7	8. 体位保持(ポジショニング) 9. 褥法 1) 冷褥法 2) 温褥法 10. 身体ケアを通じてもたらされる安楽			講義 DVD視聴	
8	Ⅱ. 創傷・感染 <感染> 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3. 感染経路別予防策			講義	
9	4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 感染性廃棄物の取り扱い 6. カテーテル関連血流感染対策 7. 針刺し防止策			講義	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
10	8. 無菌操作 体験学習 ①鑷子で綿球を操作する ②清潔野を作る ③滅菌グローブの着用	講義 演習
11	<創傷管理> 1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置 1)創洗浄と創保護 2)テープによる皮膚障害	講義
12	3. 包帯法 体験学習(環行帯▶らせん帯、麦穂帯)	講義 体験
13	4. 褥瘡発生の基礎知識 5. 褥瘡予防 体圧分散マットレスと体圧測定、除圧方法、安楽な体位	講義 体験
14	6. ドレーン管理 1)ドレーンの目的と種類 2)ドレーンの管理、観察のポイント、ドレーン固定の実際	講義 体験
15	筆記試験	
使用教材	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 2. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 学研 3. 川島みどり監修 看護学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院	
参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 2. 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ 3. 看護技術—講義・演習ノート 下巻 診療に伴う看護技術 学研 4. 写真でわかる看護のための感染防止アドバンス DVDBOOK インターメディカ	
成績評価の方法	筆記試験、課題への取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。	



科目名	基礎看護技術Ⅵ 診療補助技術【与薬】				
科目分類	専門分野Ⅰ	履修年次	2年次	履修時期	4月～9月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	対象が安全・安楽に診療を受けるために必要な知識・技術・態度を習得する。				
学習目標	1. 薬物・輸液療法の意義・目的を理解し、薬物・輸液療法を受ける患者に必要な援助の方法を理解する。 2. 安全に与薬を行うシステムがわかる。				
回	授業内容			授業方法	
1	※講義のガイダンス Ⅰ. 与薬の基礎知識～薬と与薬 Ⅱ. 薬物療法の意義～薬物療法とは、意義・目的 Ⅲ. 薬物療法の基礎知識 1. 薬物に関連した法令 2. 医薬品の取扱い 3. 日本薬局方による品質管理			講義	
2	4. 薬物の吸収・排泄のメカニズム 薬物の投与経路と血中濃度の推移、投与経路と体循環、 食物と吸収作用の関係、剤形、用法 5. 薬物療法のアセスメント 薬剤効果に影響を与える因子 ハイリスク薬品			講義	
3	Ⅳ. 薬物療法における看護師の役割 1. 看護師の法的役割 2. 薬物療法における看護師と他職種の関係 3. 看護師の役割			講義	
4	Ⅴ. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1. 共通する与薬の方法 指示の確認、配薬方法、起こりやすい事故			講義 グループワーク	
5	2. 各種の与薬法 1)経口、その他(口腔内、直腸内)			講義 DVD視聴 体験	
6	1)その他の与薬法(点眼・点入、点鼻、吸入、貼付 塗布・塗擦法について) 2)注射法の基本(注射法の適用、容器の種類、注射器・注射針の種類)			講義 DVD視聴	
7	2)注射法の基本 バイアル・アンプル・注射器・注射針・輸液セットなどの取 り扱い、清潔操作、点滴滴下数の計算について			講義 DVD視聴 実技	
8	3)皮内・皮下・筋肉内注射			講義 DVD視聴 体験	
9	3)皮下注射・筋肉内注射 ★演習についてのオリエンテーションと演習に向けての課題提示			実技	
10	4)静脈内注射 5)点滴静脈内注射			講義 DVD視聴 体験	
11	5)点滴静脈内注射の実技			実技	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
12	VI. 輸液療法 1. 輸液療法の意義・目的 2. 輸液療法を受けている患者の看護 3. 中心静脈カテーテル刺入介助 4. 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い VII. 輸血療法 1. 輸血療法の目的・適応 2. 輸血用血液製剤 3. 輸血の実際 4. 輸血の副作用の原因と対策	講義 DVD視聴
13	演習(皮下・筋肉内・点滴静脈内注射)	演習
14	VIII. 薬物療法における安全対策 1. 危険予知トレーニング	講義 グループワーク
15	試験	
使用教材	1. 藤崎郁 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版 学研 3. 川島みどり監修 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院 4. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第1巻 総論・薬の知識 37分 5. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第2巻 薬の管理とハイリスク薬の知識 24分 6. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第3巻 与薬技術とヒヤリハット① 28分 7. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第4巻 与薬技術とヒヤリハット② 51分 8. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第5巻 与薬技術とヒヤリハット③ 30分	
参考文献	1. 看護技術がみえる Vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 2. 決定版 ビジュアル臨床看護技術 照林社 3. 看護技術講座・演習ノート 診療に伴う看護技術 下巻 医学芸術社 4. 石塚睦子他 注射の基本が良くわかる本 照林社 5. ナースのための危険予知トレーニングテキスト メディカ出版	
成績評価の方法	紙上試験は、80点とする。提出物や課題への取り組みを20点とする。合計100点満点とし、6割以上をもって単位認定とする。	